

製品名: PCNT ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15856**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	366kDa

抗原情報

遺伝子名	PCNT
別名	KIAA0402 PCNT2
遺伝子 ID	5116.0
SwissProt ID	O95613
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

背景

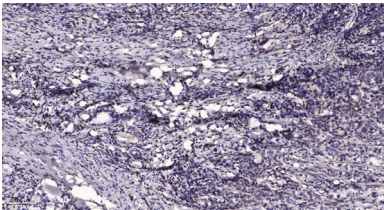
この遺伝子によってコードされるタンパク質はカルモジュリンに結合し、中心体で発現する。これは中心体周囲物質（PCM）の不可欠な構成要素である。このタンパク質は、一連のコイルドコイルドメインと、C末端付近に PACT ドメインと呼ばれる高度に保存され

た PCM 標的モチーフを含む。このタンパク質は微小管核形成因子である γ -チューブリンと相互作用し、中心体、細胞骨格、および細胞周期の進行の正常な機能に重要であると考えられる。この遺伝子の変異は、ゼッケル症候群 4 および小頭症性骨異形成原発性小人症 II 型を引き起こす。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見出されている。 [RefSeq 提供、2015 年 10 月]; 疾患: PCNT の欠陥は、小頭症性骨異形成性原発性小人症 2 型 (MOPD2) [MIM:210720] の原因です。骨異形成性原発性小人症 2 型としても知られています。このまれな遺伝性疾患の成人の平均身長は 100 センチメートルで、脳の大きさは生後 3 ヶ月の乳児と同程度ですが、知能はほぼ正常です。機能: 中心体周囲物質 (PCM) の不可欠な構成要素です。細胞内局在: 細胞周期のあらゆる段階で中心体中に存在します。微小管の脱重合後も中心体と会合したままです。サブユニット: PCM1 と相互作用します。カルモジュリンと結合します。組織特異性: 胎盤、肝臓、腎臓、胸腺を含む、検査したすべての組織で発現しています。、

研究分野

細胞生物学; 細胞周期; 細胞分裂; 紡錘体; タグと細胞マーカー; 細胞内マーカー; 細胞小器官; 中心体

画像データ



パラフィン包埋ヒト胃腺癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、45 分)。